

由布岳・鶴見岳縦走～霧氷鑑賞～

【報告者】H田

【日時】2018年12月15日(土)

【天候】霧のち晴れ

【参加者】H田

《コースタイム》

7:30 由布岳正面登山口→9:30 マタエ→西峰→お鉢巡り経由→東峰→日向岳分岐→13:00 東登山口
→猪の瀬戸口→馬の背→14:50 鶴見岳→17:00 鶴見岳ロープウェイ乗場→(バス)→由布岳正面登山口

《 報 告 》

久しぶりに長い距離を歩きたくて、由布岳から鶴見岳まで縦走することにした。

このルートは、1年前にも歩いている。その時は由布岳から望む、紅葉で彩られた鶴見岳があまりにも美しく、行かずにはいられない心地だった。時期を変えて歩いたらどんな景色が見られるのだろう。そう思い、温めていた計画だ。

由布岳正面登山口まであともう少しというところで、突然、車の前に2頭の鹿が飛び出して来た。思わず急ブレーキを踏みこむ。楽しい前触れであることに、賭ける。



天気予報は晴天だったが、山頂は雲の中に隠れていた。1週間前の週末は低山でも小雪が舞うほど冷えていたが、この日はこの時期にしては少し暖かかった。A屋さん達が雪山トレーニングで別ルートから由布岳に入るというのに触発され、リュックにウェイトと水とコーラを持てるだけ入れてスタートした。

歩きはじめから、足下の霜柱がサクサクと心地好い。合野越の辺りからだったろうか、日陰は雪が残っていた。

標高が上がるにつれ、少しずつ樹々が白く見えてくる。細枝についた霧氷や、粉砂糖をふりかけたようなアセビの蕾が



かわいくて、目を楽しませてくれる。山全体が白く見えるところまで登ると、もうすぐマタエ。残念ながら下界の眺望はないけれど、ここはもう雲の中。風は穏やかで、1年振りに見る霧氷がとてもキレイで、それだけで嬉しい。

マタエから、まずは西峰へ登る。雪はあるものの靴で歩ける程度だった。ただ滑らないように注意して歩く。

西峰に上がったら、そこからお鉢巡り。由布岳の双耳峰を真近に眺めながら歩ける大好きなルート。霧氷をたっぷり纏った樹々が、時々通せんぼするようにたわんで被さってきて、かがんでくぐるも頭から霧氷にまみれてしまう。キレイな霧氷を落としてしまうのが心苦しくて、苦笑い。A屋さん達が通る時も、ちゃんと残っていますように。



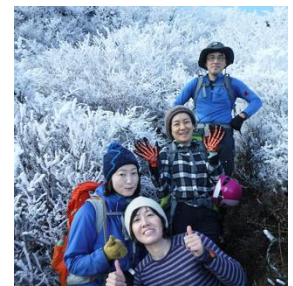
お鉢巡りから東峰に上がり、一息ついた。天気の良いければ、ここから鶴見岳が見えるのだが、鶴見岳の山頂付近も霧がかかっているようだった。おにぎり1つ食べる間に、体が冷えてしまった。

東峰から少し引き返し、東登山口へ向かって下る。計画書によると、このルート上でA屋さん達とすれ違う予定だ。どこですれ違うかワクワクしながら鎖場をおりて、少ししたところで、見覚えのある顔が見えて



来た。A屋さん、HSさん、A本さん、I藤さんの順番で登って来る。嬉しくて、待ち構えながらシャッターを切る。みんなでもパシャッ。

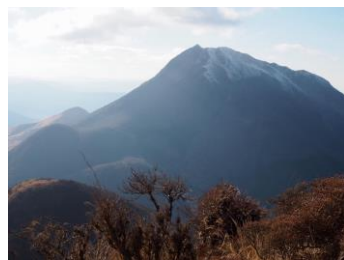
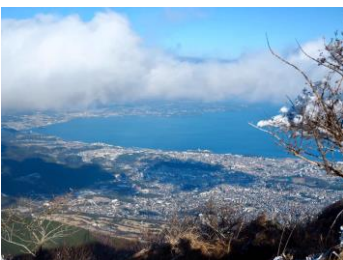
それから先、長々と下り道を歩き、日向岳分岐を過ぎて由布岳の東登山口に着くと、そこは鶴見岳の西登山口でもありまして。ここでもう一度一息ついた。意外と疲れは感じなかった。おにぎりをもう1つ頬張りながら歩き出すとすぐ、学生さんが団体で下りて来た。口々に「こんにちは」とごあいさついただくので、こちらは何度も「こんにちは」。食べながらで失礼しました。



しばらくは割と整備された林道を歩き、途中からゴロ歩きに変わる。上体は疲れてないのに、長い下りで消耗したのか、この辺りから足が重くなって来た。以前もそうだったなと思い出しながら、気力で馬の背まで登る。ここの景色と、どこからか香る温泉の匂いに気持ちも上がり、一気に鶴見岳山頂へ。

だいぶ溶けた様子だったが、少し霧氷が残っていて、その先に別府湾と街の景色が見渡せた。

鶴見岳はロープウェイでも行けるとあって、山頂はおしゃれなコートのカップルや家族連れで賑わっていた。札所巡りや七福神巡りもあるのだが、時節柄クリスマスソングが流れていて、そのミスマッチが楽しかった。



山頂に着いた時に15時を過ぎていたらロープウェイで、15時前なら歩いて下山すると決めていた。幸い15時前だったので、歩いて下りる。下山はべっぶ鶴見岳一気登山道。海拔0mのSPAビーチから1,375mの鶴見岳まで一気に歩けるルートで、毎年タイムレースなどの登山イベントが行われている。今回は、標高500m辺りの鶴見岳ロープウェイ乗り場の方へ降りる。しばらくは雪解けでじゅくじゅくした道で歩きづらい。長い下りで足が疲れるが、なんとか予定通り16時56分にバス停が見えた。間に合った～と思ったら、バスはすぐそこまで来ていた。道を渡ればバス停に着くのに、他にバス停で待っている人が居なかったのか、減速しただけで停まらず走り出す。見えるように手を降ってみたが無情にも目の前を通過…。次のバスが来る50分後まで、寒いのでロープウェイ乗り場の売店に避難し、ひとり時間を潰すこととなった。朝の鹿が吉兆だというのは、思い過ごしだったのかも知れない。

帰りの車中、次の季節に再び別のルートで両山を縦走する計画を立てようと心に決めた。

今回も、下山連絡を受けてくださる留守宅の I 丸さんに、このような報告ができる会の皆様に、感謝です。